

「伝統ある日左連誌」と 「リアルタイムな情報のホームページ」で日左連から発信

日左連 広報委員会
委員長 鈴木 光

このたび、武藤広報委員長（日左連副会長）の後任となりました、理事の鈴木光です。伝統ある日左連誌を会員の一人でも多くの方々に購読していただけるように、今後、私を含め委員一同が邁進いたします。よろしく申し上げます。

本誌の基本理念は、日左連が左官のプロフェッショナルの唯一の団体である、という立場で記事を掲載していくつもりです。まず会員の皆様には情報発信と受信を基調に、喜んでもらえるものを、そして建築業界・社会に対しては、左官の構工法を提案して行きます。日左連のホームページでは、新しい情報を順次皆様にお伝えしていくつもりですので、絶えずチェックしていただきたいと思えます。

今後は会員の皆様と一方通行にならないように心がけていきますが、そのために是非、皆様の積極的なご意見・質問等の投稿をお願いし、同時にお待ちしております。

日左連誌及び業界紙の簡単な沿革を書き添えます。長い歴史があることをご確認ください。

参考：左官雑誌の沿革

① プラスター誌

大正10年に東京左官工業組合の現在の青年部にあたる工友会が発足してプラス

ター誌を発刊する。大正12年の関東大震災によって一時休刊するが、大正13年8月より東京都左官工業協同組合及び工友会の機関誌として新たに「プラスター」誌が刊行されるようになる。その後、戦火が激しくなるにつれ廃刊せざるおえない状態になる。

この「プラスター」誌が礎になり、戦後、新生日左連として再生されたのを機会に「日左連誌」として発刊され現在に至っている。

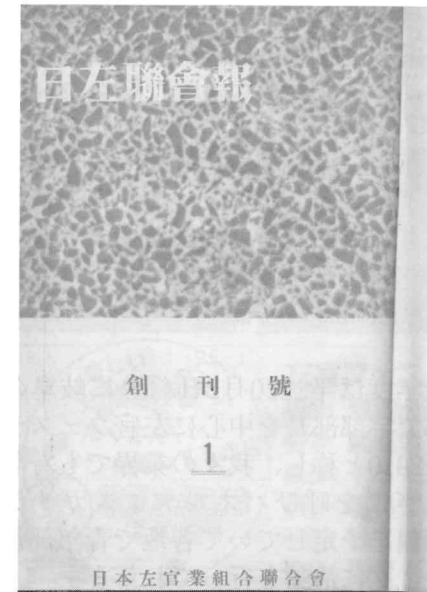
*「プラスター誌」をお持ちの方、日左連事務局まで御一報ください。



写真1 関東大震災後再刊されたプラスター誌
大正13年10月再生創刊号

② 日左連誌

戦後の昭和27年4月に日左連再建総会懇談会が開催される。この総会で「日左連会報」を発行することが決定された。戦前から東京都左官工業協同組合で発行していた「プラスター」を雛形としている。当初は「日左連会報」の名称で昭和27年5月に創刊号として発刊したが、一般会員以外にも多く発送されているため、昭和29年2月号より「日左連」と改称し現在に至る。



写真「日左連会報」
昭和27年創刊号

③ 左官教室

昭和31年 黒潮社代表の井出能巳氏によって創刊される。左官業者・青年左官のみならず材料の開発・製造・販売に関わる人たちをも啓発する雑誌となる。長年編集に携わってきた小林澄夫氏は業界の水先人として知られる。惜しまれつつ平成19年9月号をもって廃刊する。

*「左官教室」の昭和20年代・30年代お持ちの方、日左連事務局まで御一報ください。



写真 左官教室
昭和31年7月創刊号